

## 文人・墨客を魅了した唐津（1/4）

～森鷗外「ことさへぐ唐津のはまに近松が いほりの跡をとひし日おもほゆ」ほか～

### ■森鷗外

明治34年 唐津に来遊

明治時代第1の教養人であり、学者であり小説家であるとたたえられる文豪・森鷗外に、昔、第12師団軍医部長として小倉に居た明治32年6月から35年3月まで、ほぼ2年間にわたる「小倉日記」がある。

小倉日記によると鷗外が2度目に佐賀県を訪れたのは明治34年5月19日から21日にかけて、ほどなく小倉赴任3年目を迎えようとしていた。このとき、鷗外は柳川から人力車で一旦佐賀に入ってきて、そこから汽車で唐津へと向った。唐津線が全通する3年前、牛津あさみ ばる一筋間は人力車に揺られた。

季節は5月、気分も晴れやかだったのだろう。鷗外はめずらしく「この日天気晴朗、昨の如く、あふち（センダン）の花の紫なる、野ばらの花の白きなど頗る喜ぶべし。所々挿秧（田植）する者あり、また唐津鉄道の車窓より女子の柄ある箆を河中に沈めて蜆を捕るを見たりし」と素直に車窓の風物をたのしんでいる。

唐津はやはり徴兵検査視察のためであったが、翌20日は終日公会堂に在りて事を視た。帰途小笠原家の菩提寺である西寺町の近松寺きんしょうじに足を運んでいる。

「土橋半しゅうばくず頰れて、境内すこぶ頗る荒廃す。現在寺沢大典を見て、巢林子そうりんしが墓のつ踏石の事を問ふ・・・」

巢林子とは近松門左衛門のことである。近松は大阪に出て浄瑠璃となる前、この寺で修業した一時があったと伝わる。よほど鷗外は近松を高く買っていたのだろう。墓の台石に彫まれた漢文による由来をたんねんに写し取っている。（文は諸書に載すと雖ど、その或は誤説あらんことを慮りて）とわざわざ自分に断るほどだ。（井上智重）

鷗外は明治14年東京帝国大学医科大学卒業後陸軍に出仕、独乙に留学し専門の医学のほかに文学哲学美術を研究、明治文壇啓蒙の功大なり。（『末盧国』より）

### ■斎藤茂吉

茂吉の唐津滞在は、長崎医学専門学校教授時代の明治29年（8月30日—9月10日）の夏、療養のため西浜海岸木村旅館に宿泊10日間、その間の詠歌25首が昭和21年刊行の歌集「つゆじも」に載っている——（『末盧国』より）

～2/4へつづく～

分野

文化

◎地図・写真・統計資料など



斎藤茂吉の歌碑（舞鶴公園）  
松浦河 月あかくして 人の世の  
かなしみさへも 隠さふべしや 茂吉



斎藤茂吉の歌碑（西の浜）  
肥前なる唐津の濱にやどりして  
唾のごとくに明け暮れむとす 茂吉

歌碑は、茂吉が大正9（1920）年、喀血後の療養に来唐した時に詠ったもの

（松浦文化連盟建立 碑を訪ねてより）

◎引用・参考文献（出典）

◆『末盧国』P601  
（森鷗外、斎藤茂吉）

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)

## 文人・墨客を魅了した唐津（2/4）

～森鷗外「ことさへぐ唐津のはまに近松が いほりの跡をとひし日おもぼゆ」ほか～

～1/4からつづく～

### ■岡吉胤

「松浦家苞」まつらのいえづと

松浦家苞は、明治7年前後に田島神社の宮司をしたことのある岡吉胤が安政6年の秋、東松浦郡を旅して土佐日記風に綴った旅行記である。岡吉胤は当時26歳の青年であった。この「旅行記」が明治31年3月、三重県津市で木版で刊行されたものを「末盧国」に順次登載することにした。文章、文字ともに難解にして容易に近づき難いが、内容は読むにつれ興味ふかいものがある。書物の太さは縦26cm、128頁におよぶ和綴本。岡吉胤（天保4年～明治40年・1833～1907年）は明治中期の国学者、旧佐賀藩士で禰宜。天保4年に生れ、明治40年7月13日水戸で没した。75才。国学を古川松根に学び、維新後神祇官に入り、伊勢神宮禰宜に転じた。のち皇祖教を創めてその管長、大教正にすすみ、国史国文を講ずる傍ら史書をよくし、その著に徴古新論、日本紀大集釈、葬祭要儀、国語集解、松浦の家苞、吉野の家苞、水府小言、筑波集などがある。（末盧国より）

本文より抜粋

山路をたどりつゝ伊岐佐の里にいたりぬ。そこより草刈（り）わらは（童）に道をとひて、谷かげのながれにそひ、水上遠くさかのぼるに、打（ち）わたすはるかの峯に白布をひきは（映）えたる如きものあり。是ならむ、聞（こえ）わたりし瀑布なるらめと、いち足（逸足）して岩がねによりそひ、あふぎみるに、いや高きみね（峯）のいただき（頂）より、こゞし（岩の塊）岩根をつたひて、飛泉の落ちくるさま、きも（肝）をひやすばかりになるに

こは小竜門の滝とて六十五六間ありけるよし、その滝の中ほどより二またに分かれたるによりて男滝、女滝の名あり

そのもとには滝つぼいとふかく、そこひ（窮る所）もしらず青みたちて、岩のはざまはざま（間々）には、えもしらぬ苔艸（草）など生（い）しげりたるが、しぶきにみだ（乱）るゝさますさまじう、ものすごきこといはんかたなし。——（末盧国より）

～3/4へつづく～

分野

文化

◎地図・写真・統計資料など

◎引用・参考文献（出典）

◆『末盧国』P293、294  
（岡吉胤）

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)

## 文人・墨客を魅了した唐津（3/4）

～森鷗外「ことさへぐ唐津のはまに近松が いほりの跡をとひし日おもぼゆ～」

～2/4からつづく～

### ■種田山頭火

山頭火が唐津の街を行乞して歩いたのは、昭和7年1月19日、20日、21日の3日である。

この旅は筑前の海岸を西へ西へ足の向くままに歩き、前日は浜崎町の栄屋（木賃25銭）に泊り、午後虹の松原を通して市中に入っている。

「唐津というところは、今年飯塚と共に市制をしいたのだが、より多く到着を持っているのは城下町だからだろう。松原の茶店はいいね。薬鐘から湯気がふいている。娘さんは裁縫している。松風・波音…。

松に腰かけて松を観る

松風のよい家ではじかれた

この宿はおちついてよろしい」

と日記にしるしている。宿は唐津の何町かは書いていないが、梅屋（30銭中）とある。中とはサービスや設備の山頭火的評定。“はじかれる”は、行乞者の術語とでもいうか「お通り」のこと。虹の松原はよほど気に入ららしい。

「虹の松原はさすがに美しいと思った。私は笠をぬいで、鉄鉢をしまつて、あちらこちら歩きまわった。そして松は梅が孤立的に味はれるものに対して、群团的に観るべきものだろう——を満喫した」

～中略～

この日、名物松露饅頭は「名物にうまいものなしというが、うまそうに見える（食べないから）そしてその本家・元祖というのが方々にある」とノートしている。

甘党でない彼は小鯛を買って来て、晩酌一杯を楽しみ、句作2つ。

けふのおひるは水ばかり

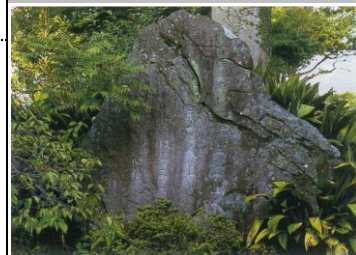
山へ空へ摩訶般若波羅密多心経 ——（末盧国より）

～4/4へつづく～

分野

文化

◎地図・写真・統計資料など



種田山頭火句碑（近松寺境内）

空へ 山へ  
まかはんにや  
はらみた  
心経

山頭火

（松浦文化連盟建立 碑を訪ねてより）

◎引用・参考文献（出典）

◆『末盧国』P309  
（山頭火）

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)

## 文人・墨客を魅了した唐津（4/4）

～森鷗外「ことさへぐ唐津のはまに近松が いほりの跡をとひし日おもぼゆ～」

～3/4からつづく～

### ■蒲原有明

「松浦あがた」呼子の章

唐津より西北、佐志をすぎ、唐房より上りて一帯の高原をよぎる、下ればすなわち呼子、そのあひだ凡五里ばかり。この高原の玄海洋に斗出するところ、奇巖をあらはすものを「七ツ釜」となす——（『呼子町史』より）

### ■小杉放庵

「松浦瀧紀行」七ツ釜

いつの世にどう云ふ加減で、火山の熔岩が、あかも気を揃えて、角挽きの材木を並べたやうに、堅に割れたものやらんと玄武岩の大屏風が、玄海の潮の上に立て廻してあるを眺めつつ、今更子供のやうな驚異を覚えます——（『呼子町史』より）

### ■幸田露伴

下関より小倉へ渡り、山鹿宗像箱崎松原、敵国降伏の御筆を無筆ながら拝みたてまつり、博多柳町も余所眼に過し福岡姪が浜今宿深江、肥前に入りて名護屋より平戸に便船ありと聞き、唐津から波戸浦へと志し、首尾よく船を得て壱岐へは15里平戸へは18里の其所より浪枕の夢の見初め、烈しき地方風にも沖風にも運よく逢はず、右に大島左に青島、越えて雷の瀬も無難に平戸へこそは着にけれ。——（明治の文学 第12巻 『いさなとり』より）

分野

文化

◎地図・写真・統計資料など

◎引用・参考文献（出典）

- ◆『呼子町史』P377（蒲原有明）
- ◆『呼子町史』P380（小杉放庵）
- ◆『明治文学全集25 いさなとり』（幸田露伴）P147

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)